

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 田村 義和
 〒 378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

よりよい成長を願って

利根教育事務所 管理主監 木樽 一秀

先日、「子育て呑龍」のお寺として有名な大光院に行ってきました。3月初旬にもかかわらず、とても暖かい日で、何組かのお宮参りをしている家族を見ました。祝着でお父さんやお母さんにしっかりと抱かれ、体や心の温かさを感じ安心しているのでしょうか、とても気持ちよさそうな赤ちゃん。心の中で「無事に生まれてきたんだね。すくすくと育ってね。」と声をかけてしまいました。また、ご両親には、この日のことを忘れずに「しっかりと育ててください。」と。

子どもたちにとって家庭とは、心安らく居場所、社会へ巣立つために欠かせない場所です。そして、それぞれの家庭では、全ての教育の出発点である家庭教育がなされています。この家庭教育は、家族のふれ合いを通して、子どもが、基本的な生活習慣や人に対する信頼感、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自立心などを身に付けていく上で重要な役割を担っており、子どもたちの成長にとって欠かせない教育です。しかし、このところ家庭生活や社会環境の変化により、家庭の教育力の低下が教育問題の1つとして取り上げられています。その解決策として、親が安心して家庭教育ができるよう、改めて家庭教育の大切さを社会全体で考え、家庭教育を応援していくことが求められています。そこで、今号では、家庭との連携が不可欠な学校で県教育委員会作成の「ワクワク子育てトーク～ぐんまの親の学びプログラム～」を活用していただきたく紹介しています。一読いただくとともに、他のプログラムも見ていただければと思います。

この頃、よく耳にする言葉の1つに「人工知能(AI)」があります。今、人工知能の開発が急速に進み、10年後や20年後の社会は、職業の変化をはじめ生活様式など大きく変化すると予想されています。子どもたちは、将来に夢をもち学んでいます。10年後や20年後の社会の変化を見据えることはなかなかできないと思います。私は、社会の変化を経験し実感してきた一人として、子どもたちが豊かな心や課題を解決する力などを身に付け社会の変化に対応できるような教育に努めたいと思います。子どもたちのよりよい成長を願って。

生涯学習係 「ワクワク子育てトーク」～ぐんまの親の学びプログラム～をご存じですか？

「ワクワク子育てトーク」は、「保護者懇談会」「PTA行事」「就学時健診時の子育て講座」など、多くの親の集まる機会に、参加者(親)が、相互の関わり合いを通して、家庭教育の大切さを再認識できる参加体験型学習プログラム集です。ぜひ、ご活用下さい。※プログラムは、「群馬県生涯学習センターWebページ」からダウンロードできます。

「ワクワク子育てトーク」の特徴

親子のエピソードをもとにしたロールプレイング(役割演技)により、親の役割や子どもへの対応を考えるとともに、親どうしのつながりを深めて、子育てのコツをつかんだり悩みを軽減できたりします。

☆「小中学生の親向け」「これから親になる高校生向け」等、子どもの年代別にプログラムが用意されています。

「ワクワク子育てトーク」の進め方

講師はいりません。ファシリテーター(進行役)が、プログラムの『エピソード台本』『進行の方法』により、少人数に班分けした参加者(親)の活動を促します。(所要時間15～90分)

☆ファシリテーターは、先生やPTA役員はもちろんのこと、参加者(親)が交代で行うこともできます。

プログラムの例

【エピソード】

小学1年生になったAくんと「自分で使ったものは、自分で片付ける」ことを約束しました。約束をしてから、2、3日はがんばっていましたが、だんだん続かなくなってしまいました。そこでお母さんは「……」

【ファシリテーターの進行】

- 1 エピソードを読み、場面を確認した後「お母さんだったら何というか」考えてもらう。
- 2 2人組になって、お母さんとAくんに分かれて、役割演技をしてもらう。このとき、感じたこと等をメモしてもらう。
- 3 役割演技をして、感じたこと等を発表し合ってもらう。その後、子どもの接し方について意見交換してもらう。

【参加者の感想】

○「ワクワク子育てトーク」を通して、子どもの接し方で悩みを持っているのは、自分だけではないことが分かり、心が軽くなりました。また、同じ学年の子どもを持つ親どうしのつながりが深まったと感じました。

※「ワクワク子育てトーク」についてのお問い合わせは、利根教育事務所生涯学習係(23-0165)まで。



学校教育係 子ども一人一人を認め励ます「道徳科の評価」



道徳科の評価が不安です。何をどのように評価したらよいのでしょうか…。

授業の質的改善とあわせて、評価についても準備を進めておく必要がありますね。学習指導要領等を参照して、ポイントや基本的な考えを確認しましょう。



道徳教育推進教師

小学校・中学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」

4 児童(生徒)の 学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

学習状況や道徳性に係る成長の様子とは…？

「何を」評価する？ 重視して把握したい子どもの姿

一面的な見方から 多面的・多角的な見方へと 発展させているか。

道徳的価値の理解を 自分自身との関わりの中で 深めているか。

自分と違う立場や感じ方を捉え、考えようとしていることなどです。



登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして道徳的価値を理解していることなどです。



「どのように」評価する？ 評価の基本的な考え

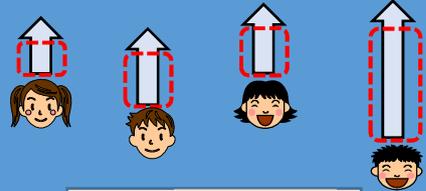
- ・数値による評価ではなく、記述式とする。
- ・いかに成長したかを認め、励ます 個人内評価を行う。
- ・1単位時間の授業だけでなく、一定の期間を経て発展したり深まったりしていることを見取る。
- ・個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とする。
- ・道徳的な判断力などの道徳性の諸様相について学習状況を分析的に捉える 観点別評価は妥当ではない。

発言やワークシートなどから、学習の過程や成果の記録を計画的に蓄積しておく工夫が必要です。



個人内評価のイメージ

道徳科の目標



を評価する。

具体例 道徳的な価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている姿を評価する

小学校1年生 9月
「かぼちゃのつる」(A 節度、節制)

<ねらい>
ひとの注意を聞かないでわがままなことばかりしていると、ひどい目に遭ったときに誰もかわいそうだと思ってくれないことを理解し、わがままや自分勝手な行動を慎もうとする心情を育てる。



Aさん

自分のことだけ考えて、つるをぐんぐん伸ばすわがままなかぼちゃだから、みんなを困らせたのだと思います。

Aさんは、登場人物の感じ方を読み取ることを通して、道徳的価値について理解しているな。



11月「おおひとやま」
(C 規則の尊重)

「少しだからいい」と思ってきたりを守れないことは私にもあります。

<ねらい>
やまがらの涙を見たみそさざいの気持ちから、友達のことを思って、大切にすることの喜びに気づき、友達と仲よくしようとする心情を育てる。



教室に友達が一人だけいたから、誘って一緒に遊びました。とてもうれしそうにしてくれて私も気持ちがよくなりました。

道徳的価値について理解するとともに、友達を誘った経験を思い出しながら考えているな。



12月のAさんは、読み物教材を基に道徳的価値について理解することに加えて、自分自身の経験と照らし合わせて考え、理解を深めることができるようになっていますね。こうした姿を積極的に把握しましょう。



授業の中で一人一人の子どもをよく見て、成長した姿を積極的に捉えていくことが大切です。